

そ う ぜ ん じ 便 り

19世 俊諦和尚筆

第 140 号

令和2年春彼岸号

臨 濟 宗 宗 禪 寺
建 長 寺 派

住 職 高 井 和 正
閑 栖 住 職 高 井 正 俊

羽 村 市 川 崎 2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

第22回 春の文化展

3月20日(金・祝)〜22日(日) 10時〜16時(最終日15時まで)

皆様に支えられて今回で二十二回目を迎えます。今回の特集は昨年より引き続き「はむら・アート展・パート2」と題し、地元羽村所縁・在住の芸術家の皆様の作品を一堂に展示致します。彼岸のお参りにあわせて、我々の住んでいる地元の町で活動している芸術家のお力を直接体感して下さい。

特別展示

はむら・アート展

パート2

木工芸／五十嵐誠氏・仏画／林潤子氏 岡田義明氏
モザイク／岡田七歩美氏 宮川雄介氏
写真／菊田明理氏・禅画／や嶋カズヒロ氏
漆絵／並木恒延氏

◆施茶 展示会期間中、会場内にてお抹茶をいただけます。

○春の彼岸早朝坐禅会。十七日〜二十三日まで。朝六時〜七時です。清々しい朝の空気を全身感じます。どうぞご参加下さい。

○彼岸前に護持会・薬師講の方々が境内・墓地のお掃除をして下さいます。皆様もお仏壇とお墓の掃除を忘れずに。

展 示

書道・絵画・造形・写真・折り紙・俳句・編み物
尺八・篆刻・水墨画・山野草・陶芸・木彫等
フラワーアレンジメント・押し花・切り絵

花まつり

四月七日(火)〜九日(木)

釈尊誕生日花祭り

花展覧会のお知らせ

四月八日はお釈迦様の誕生日です。お釈迦様とご縁を祝して花まつり法要・花供養・花展を執り行います。皆様のご来山をお待ちしております。

◆花供養

来山の皆様がお釈迦様に一本ずつお花を供えます。

◆花まつり法要

●四月八日(水) 十三時より

●参加費 無料

●みんなで般若心経唱和

●みんなで御詠歌唱和

●花まつり法話

●生田流箏と尺八の演奏

●草月流上原瑞光先生の花活込み実演

◆花まつり・花展

●四月七日(火)〜九日(木)

●観覧 九時〜十五時 三日間開催

●活花体験コーナーがあります。

※七日は午後から観覧となります。

期間中「甘茶」を用意しています。

節分豆まき会

二月三日の月曜日に例年通り節分豆まき会を行いました。薬師堂にて一年の安泰祈願の法要を執り行い、かつぼれの奉納演舞の後、豆まきを執り行いました。節分の豆は魔を減するからきているとも言われており、豆まきは厳しい冬が終わって新しい春を迎えるにあたっての邪気祓いの儀式となります。



客殿での歳取りの宴

宗禅寺の豆まきでは、ご来山いただいたすべてのお子様方にお菓子のプレゼントがあります。檀信徒以外の皆様も大歓迎致します。毎年二月三日の十六時から行っていますので、是非とも一度遊びにいらつしやうして下さい。全員にお土産もあります。お待ちしております。



みんなでにぎやかに豆まき

「土佐源氏」公演

今年も開催致します。

俳優坂本長利さんの独演劇である「土佐源氏」公演を昨年に引き続き宗禅寺で行います。皆様のご来山をお待ちしております。

記

【日取り】 六月七日(日)

【時間】 開場 十三時半 開演 十四時

【観劇料】 お一人様千円

※観劇料は当日お納め下さい

【定員】 百五十名

【お申し込み】 事前申し込み制

【申し込み受付期間】 令和二年四月八日から

※定員になり次第、申し込み締め切りとさせていただきます

【申し込み方法】

1 お電話 ファックス

電話 042-554-1276

FAX 042-578-3525

2 宗禅寺ホームページ問い合わせから

3 直接お寺でお申し込み

※いずれの方法も

①お名前 ②お電話番号

を忘れずに正確にお伝え下さい。

土曜講座 宗禅寺・涅槃会 (ねはんえ)

毎月一回、公開講座を開催しています。二月十五日が仏教の開祖、お釈迦様のご命日ということで、二月八日の土曜日の土曜講座は宗禅寺涅槃会として行いました。

長野県の長谷寺の奥様、岡澤恭子先生にお越しいただき、お釈迦様の涅槃図の絵解きをしていただきました。

涅槃図というのは、お釈迦様がお亡く



江戸時代から伝わる涅槃図です。

なりになったときのことを絵画でしめしているものですが、一枚の涅槃図の中に託されている様々な物語を情緒豊かにお話しして下さいました。涅槃図には投薬という言葉の由来、一番弟子阿難尊者の泣き崩れる御姿、動物たちの悲しむ御姿など、様々な情景が描かれており、そこに託された物語がたくさんございます。

また、お話しの後には、檀信徒・太田



大と小のハーブが並んでいます。

博子様によるハーブの生演奏を楽しみました。お寺の本堂での演奏は、とても間近に楽器を楽しむことができます。また来年も二月十三日に行いますので、楽しみにお待ち下さい。

土曜講座は毎月一回、和正住職の仏教講座、地元の方やお客様を招いての勉強会です。檀家さんに限らず、どなたでも参加出来ます。おいで下さい。

江尻南美さん

七タピアノコンサート

羽村の清流地区ご出身のピアニスト、江尻南美さんのピアノ演奏会を開催致します。日頃はヨーロッパで活躍をされている江尻さんですが、故郷羽村においても定期的に演奏会をされています。

演奏されるお姿をホールよりも間近に音を感じることが出来る機会となります。

◆江尻南美さん七タコンサート

【日取り】七月七日(火)午後予定

※詳細が決まりましたら、改めてご連絡致します。

文庫長だより 島田 秀男

今ここに、日露戦争に従軍し満州で戦死した羽村出身の橋本市平が送ってきた軍事郵便があります。軍事郵便は、兵士が銃後の人々に戦地から発信した手紙やその逆に故国から戦地にいる兵士に宛てた手紙やほかのことです。

日露戦争は、韓国(朝鮮)と満州(中国東北地方)の支配権をめぐる日本と帝政ロシアとの戦争です。明治三七(一九〇四)二月八日にはじまり、明治三八年(一九〇五)九月に終結しました。

明治三七年八月、遼陽を占領するために、日本軍は一三万を結集し、連続一週間の激闘のちロシア軍を撤退させました。この戦闘では、日本軍の死傷者は二万三五〇〇名に達し、その結果現役兵の大量喪失をもたらし、明治政府は徴兵令を改訂し、服役年数を五年延長したのです。

同年一〇月に遼陽北方で行われた沙河会戦では、兵力と弾薬不足により、日本軍は玉碎覚悟の白兵戦となり、かろうじて勝利しました。兵器や弾丸の不足は精神力で補え、そうすれば勝てるという皮肉な「神話」が語られたといえます。その後、激しい肉弾戦となった二〇三高地の戦いを経て、旅順を陥落させました。

明治三八年二月、奉天会戦の戦闘が開始され、三月日本軍は奉天を占領しました。

このとき日本軍は、日露戦争中、最大の兵力で戦い、死傷者は七万とあまりにも多くの犠牲者をだしたのです。

橋本市平は、明治一五年(一八八二)四月生まれ。明治三五年(一九〇二)一二月に徴兵され、近衛砲兵連隊に入営します。日露戦争では、明治三七年三月に満州へ出征し、同年一二月に独立野戦砲兵大隊に編入されました。明治三八年二月奉天会戦が開始され、翌三月に戦死しました。

橋本の軍事郵便は、明治三八年二月二日付西多摩村役場宛の書簡です。この手紙には、三名の友人が戦死したことの知らせを受けて、友とは同じ羽村で生まれ、同じ空気を吸い成長しこと。学校とともに学び、成人してからは一緒に酒を酌み交わし、同じ職場で苦楽をともししてきた。だから彼らの性格もよく知っている。彼らは「厳肅なる軍紀と秩序とをいじせられ、決死報国をもって帝国軍人たる自分を全せられ」た。しかし、自分は名誉なる友の死の前に、大声をあげて泣かざるを得ないといひ、次の一句を謳っています。

ちる花や 散らぎる花も 俱の雨
 (「俱の雨」は原文のままですが、言葉の意味が不明です。ここでは、砲弾の雨と解釈しました。)

次に、悲しみに泣くような情けない自分ではあるが、「一步を進めて思考すると諸士はよしやはてられしと雖も以て満足の自信を有せられるべく」(中略)「男児生まれて武士となり武士国ニ殉す誠に盛ならず

や」と述べ、「将来ハ敵弾を味ひ諸士と同伴せんことを冀ひ且つ拳を固めて諸士の仇討として露助メを大打撃せん事を期す」と決意するのです。(「露助メ」は差別用語ですが、原文のままとしました。)

橋本はこの手紙を書いてから一ヶ月後の三月三日、野戦重砲を操作指示中に敵の銃弾が頭部を貫通し、戦死してしまつたのです。

日露戦争では、羽村から九九名が出征し、そのうち七名の若く尊い命が犠牲となりました。

この軍事郵便を読みながら、橋本より三歳年下の中里介山が、明治三七年八月に『平民新聞』に発表した反戦詩『乱調激韻』を思い浮かべるのです。

介山は田畑を捨てて、戦争に徴集されてゆく兵士が、異郷で屍となるさまを次のように詠っています。

(第一、二、三聯(省略))
 落日斜なる荒原の夕、
 満月に横ふ伏屍を見よ、
 夕陽を受けて色暗澹。

夏草の闇を逢うて流る、
 其の腥き人の血を見よ。

敵、味方、彼も人なり、我も人なり。

人、人を殺さしむるの権威ありや。人、人を殺すべきの義務ありや。

あ、言ふこと勿れ、
 国の為なり、君の為なり。

《参考図書》『羽村町史』。『幾山河』。『下田伊左衛門文書』。『戦役記念』。

和正和尚日單

- 除夜の鐘 大晦日三〇〇名をこえる人の
来山。一年の締めくくり 12/31
- 羽村 大晦日お手伝いして下さった妻の
従兄妹たちと羽村グリーン。 1/1
- 谷中 恒例の山崎家新年会。受験を控え
た親子のみ欠席。総勢三十一名。お墓参
りと宴会。 1/2
- 三島龍澤寺 恩師後藤榮山老師に新年の
ご挨拶。 1/3
- 愛犬さくら 夕刻突然の逝去。十歳。十
二月頭くらいからヘルニアで後ろ足が不
自由になり歩けなくなっていました……
何があっても穏やかなさくらでした。あ
りがとう。 1/3
- 年始 父と檀信徒総代さんへ新年のご挨拶
へ。 1/4
- 総代新年会 お寺で総代さん御夫婦皆様
と新年会。本堂で一緒にお経とお参り。
今年もお世話になります。 1/6
- 雪山 家族四人で越後湯沢へ。今年はず
雪が少なく苗場まで足を延ばすが、苗場
も雨……。二日目晴れてみんなでゴンド

- ラに乗る。 1/7、8
- 消防 出初式前の役員会と最終訓練 1/10
- 坐禅会 写経会始め 新年一回目の坐禅会
と写経会。今年もよろしくお願い致しま
す。 1/11
- 消防 出初式 羽村第一中学校にて出初式。
私は放水隊の指揮者。本番は色々起るも
良い経験を積ませていただきました。 1/12
- 土曜講座 羽村出身の科学ジャーナリス
ト・松尾義之さんの「日本語の科学が世
界を変える」と、作家・織田百合子の「令
和——万葉集と仙覚律師」。私は最澄伝
教大師のお話し。 1/18
- 薬師講 役員さんの新年会をお寺で。本
堂で一緒にお経。 1/19
- 書き初め 毎月一回の書道教室。一月は
書き初めをしています。 1/20
- 消防 晩に週末の文化財演習の下見練習
をお寺で。 1/22
- 幼稚園 幼稚園で親子でクッキングが年一回
あります。今回は豚汁作り。持参した塩むす
びと一緒に親子みんなで昼ご飯。 1/24
- 文化財消防演習 毎年羽村でも文化財消
防演習が行われています。今回は宗禅寺
が会場となりました。消防署、消防団、

- 自営消防隊での放水訓練。 1/26
- 詠歌講 お寺で新年会。皆さんワイワイ
と賑やか。 1/28
- 小田原願修寺 二月の後藤榮山老師を囲
む会の打ち合わせを小田原で。 1/29
- 土地境界線 お寺が瑞穂町に所有してい
る土地の境界線の確認へ。 1/30
- 懇親 禅福寺に入寺された田島尚玄和尚
夫妻と夫婦同士で青梅で会食。妻から歓
迎のプレゼント。これからよろしくお願
い致します。 1/30
- 春の文化展 第一回実行委員会。今年も
特別展は羽村アート。 2/1
- 節分豆まき会 恒例の豆まき。子供たち
百八十人が豆を撒いて下さいました。朝か
らお手伝いいただいた薬師講、サンガの会の
皆様ありがとうございました。 2/3
- 保護司 霞が関にある東京保護観察所に
昨年欠席した新任保護司の研修を受講。夕
刻終わってから谷中の両親と会食。 2/4
- 西東京臨済会 昭島車屋にて新年総会。 2/6
- 松榮会 浅草の海禅寺にて後藤榮山老師を
囲む会。龍澤寺での教え子二十一人集まる。
老師は今年卒寿。ますます元気。 2/7

正俊閑栖未完成日記

- 土曜講座 宗禅寺涅槃会。二月十五日はお釈迦様のご命日です。信州長谷観音寺庭さん岡澤恭子先生による涅槃図の絵解きと、檀信徒太田博子先生によるハーブの生演奏。みんなで御詠歌とお経。2/8
- 書道教室 月一回の練習。 2/10
- 立川普濟寺 弓場重弘和尚様の奥様のお

- 令和二年は薬師講中のお力添えて、四百人近い方の除夜の鐘で新年を迎えました。
- 十二月の来山者の合計は二二〇人。昨年二年間で二万二千人のご来山をいただきました。おいでいただいた方と、良いご縁を結びたいです。
- 最近朝起きて、足手・スクワット、腹筋腕立てを各五十回。剃髪をして本堂でお経、コーヒーをいれて新聞・白単、毎日の勉強、薬師堂・外諷経、朝の勉強、スカレット、朝食という生活。体調管理のためウォーキング、掃除です。日課となりました。

- 通夜へ。急な御訃報。 2/11
- 消防 一班の訓練。耐火服、投光機、折り島田ホース。 2/13
- 山梨 龍澤時代一緒に過ごした小島大啓和尚を訪問。 2/18
- 保護司 立川にて保護司の研修。 2/27
- 建長寺 土曜法話。三門下で午前、午後

- 箱根駅伝を見ながら節分帳面作り、淑子さん風邪でダウン。 1/2
- 愛犬・サクラ亡くなる。埋葬儀。 1/3
- 総代さん方、節分世話人へお年始 1/4
- 土曜講座案内状発送。二三四通。 1/5
- 総代さん方ご夫婦、谷中和正父母、彭丹さん。本堂でお経、そして新年会。 1/6
- 東京国立博物館で建長寺開山様、蘭溪道隆和尚様、頂相彫刻に相見。 1/10
- 鎌倉禅研究会案内状発送四三〇通 1/11
- 坐禅会十六人、朝粥坐禅会十五人、写経会二十六人、木彫教室八人、各会一斉に始まる。 1/11~12
- 大鑑清規を読む会。円覚寺伝宗庵。 1/15
- 第四十四回土曜講座。松尾義之さん（日本

- とお話し。 2/29
- 春の文化展 お寺で第二回実行委員会。
- 震災復興祈願写経と托鉢 近隣の和尚さんが集まって羽村を托鉢の予定でしたが、コロナウィルスにより中止。宗禅寺では写経会の方々に供養法要をしました。 3/11

- 語の科学)、織田百合子さん(万葉集と仙覚律師)、悪天候の中五十人。 1/18
- 稲門会役員、御嶽神社で新年祈願、うつぼで新年会。五時寺、薬師講新年会。本堂で全員でお経、焼香、挨拶。 1/19
- 新町魚双井上夫妻来山。雨倉水道屋さん夫妻を招いて食事会。 1/20
- 福生母の会五十周年記念でお話し(よりそう心)聴衆二〇〇人。 1/22
- 鎌倉稲門会 井上・益岡さん来山 1/23
- 上野宋雲院 佐々木閑先生講座 1/24
- 鎌倉市制八十周年記念隈研吾さん講演を拝聴。シンポジウムも出席。 1/25
- 阿蘇神社宮川宮司死去。寺子屋委員会勉強会と新年会。 1/26

- ご詠歌講 練習後、新年会。 1/28
- 福生警察へ。運転経歴証明書をもらう 1/29
- 鎌倉禅研究会 小川隆先生(禅の問答)、横田南嶺老師(怨親平等の世界)いつも丁寧で説得力のあるお話ありがとうございます。 1/30
- 一月の来山者一六四〇人でした。
- 文化展実行委員会。三十人出席。 2/1
- 朝粥坐禅会十九人の満衆。 2/2
- 節分 九時女性手伝い集合二十五人。十時薬師講集合四十人超。料理、設営、四時法要、かつぼれ、豆まき。小さい子多し。七時祝宴。八時半終了。今年の参加者、平日なので三百人くらいか。 2/3
- 節分片付け。鎌倉塾・点心庵で、野口実さんのお話し。終って鎌倉美学へ。 2/4
- 大鑑清規を読む会伝宗庵。十二時 2/5
- 東京都庁へ宗禅寺規則の変更手続きの相談に行く。西東京臨済会の新年総会で昭島車屋へ。二十四人の出席。 2/6
- 福生幸楽園でJC歴代理事長会 2/7
- 土曜講座 お釈迦様の涅槃会(二月十五日が御命日です)。ご詠歌の奉詠、和正和尚の法話。昨年に引き続き長野県長谷寺・岡澤恭子さんのお絵解き講座。そして羽村在住の檀家、太田博子さんのハープ演奏。七十人の聴衆、話しに音に大法悦。来年も。 2/8
- 中根康雄さん私製「終戦秘話」持参。 2/9
- 岩波ホールで「巡礼の約束」を見、日本橋三越で奥西賀男展へ。 2/10
- 建長寺 未来連福プロジェクト、大川義秋・琴、東儀雅美・九十九さんの雅楽(お施餓鬼に来山します)。立川心源庵寺院・弓場弘子さんの通夜式へ。 2/11
- 京都・禅文化研究所へ彭丹先生の『蘭溪語録』翻訳本の最終打合せ。次に花園大学で鶴飼・薄井先生の講演拝聴。 2/14
- 星野造園 寺の大銀杏の枝抜き。高い所を自在にお見事。今日は涅槃会。子供坐禅会に久しぶりにご家族来山 2/15
- 鎌倉春秋 伊藤玄二郎さん、神奈川文化賞授賞祝賀会、横浜シエラトン。 2/16
- 湯島麟祥院で小川隆先生臨済録講義。七十四歳の誕生日。家族でお祝い 2/17
- 丸和育英会より二十六日の講演がコロナのため延期の連絡。葉山稲穂で稲毛・渡部さんと会食。美味。 2/19
- 写経の会十八人。健康体操十人 2/21
- 鎌倉でらこや 寺ネットの総会で、仁和寺へ。会議、懇親。翌朝金堂で朝のお経。吉田総長さんの法話。朝食後、諸堂案内。後、妙心寺から北野天満宮、南禅寺会館泊。建仁寺坂井田さんと会食。二十四日朝、南禅僧堂日下老師と相見。十時半建仁僧堂、三好通弘さんの墓経、湊素堂老師の報恩諷経、小堀管長さんと丸山で会食六人。二泊三日の京都、久しぶりに京都を満喫。 2/22、24
- この処、減量に取り組む。六十キロ台目前。青梅玉泉寺北村住職見舞。 2/25
- 鎌倉禅研究会 コロナが気になるが、開催。館隆志(臨済宗と曹洞宗)、トーマス・カーシユナー(禅僧になったアメリカ人)四十人の参加。ありがたい。 2/27
- 日本橋一番星画廊「よいの明星展」へ。新橋維新号で星政伸さん偲ぶ会。 2/29
- 二月の来山者は一四二〇人でした。昨年より四百人減でした。
- 毎月の定例行事、坐禅会、写経会、ご詠歌、木彫教室、うどん教室、俳句、尺八、健康体操、着実に生き生きと行われています。薬師講、護持会、サンガの会も強力な力になっています。お寺の活動に参加してパワーを身につけていきましょう。

講談・宗禪寺一本木堂薬師縁起(上)

講談師 菊地 玉雲作

「おい！てえんだあー！多摩川が暴れ出したー！」
「水が襲ってくるぞー。早く高台へ逃げろー。」

天正十二年（二五八三年）二十日、多摩川は台風の大雨により未曾有の大洪水となった。

「とめー、つねー、走れー、もたもたすんじゃねえ。」

「振り向くんじゃねえ。前だけ見て走るんだ。」

「お前さん」「父ちゃん」

「よおーし、こゝまで来りゃあ、もうでえじようぶだ。」

死に物狂いに走り走って、茂吉親子が高台に登った時、眼下では上流から流されて来た人々が次々に濁流に飲み込まれていった。戸板につかまったり、

なんかわかんねえが浮いている物につかまって必死に助けを呼んでいるんだが、みんな力尽きて泥水

の中に沈んでいく。

見ると川上から大きな櫓が二本流れて来た。その櫓には十数人の老若男女が必死にしがみついていた。

「助けてくれー」「助けてー」と口々に救いを求めるが、逆巻く濁流に高台の村人達も、あれよあれよ見送るだけで手の施す術もなく、「がんばれえ」「しっかりつかまってるろー」と呼びかけるのだが、

櫓の歯が欠けるように二人また二人と濁流の中へ姿を消していった。

地獄を目の当たりにした高台の村人たちは、身を寄せ合い、

やがて夜が明け、さしもの大洪水もおさまりを

を見せ、少しずつ水が引いていった。多摩川の水は

まだ泥色に濁っていたけれど、流れは緩くなり、

姿を見せた川岸に流木や岩などが漂着していた。

茂吉はその中にあの櫓の大木を認めた。

「留吉や、この櫓につかまっていた人たちはどんなにかくやしかったことだろうよ。まだ魂が水の中をさま

迷っているにちげえねえ。供養してやらなきゃなあ」と茂吉はひとり言をつぶやくように息子に話しかけた。

その日から茂吉は水死した人たちへの菩提供養のため、あの櫓に薬師尊像を彫り始めた。

仏を彫る茂吉の姿は村人の心を打ったにちがいない。いつのまにか大勢の人たちが手を貸していた。

天正十一年、そりゃあもう日本中が大混乱していた。なんせその前年

「時は天正の十年六月二日の朝まだき……朝霧朦朧として霞の如く。晴れ間晴れ間のその中に水色に白く桔梗の紋打つたる旗數十流れ旋れ、

金相笠笠狸々緋長幡連の馬印、雲霞の如く押し寄せ来たつたり……」

天下取りに王手をかけた織田信長が本能寺で明智光秀に殺されちまった。信長の跡目をめぐって戦

た戦。秀吉が目の色を変えて突っ走っていた……。

一方武州の川崎村では、村人たちがあの大櫓で大望の薬師堂を建立した。そして、茂吉が一心に彫

んだ薬師如来像が、日光菩薩と月光菩薩の脇侍と供に安置されたんだ。

さて、こゝで少々薬師信仰について勉強いたしまし

しよう。

※薬師信仰が日本に伝来したのは、七世紀前半、

聖徳太子の頃のようでございます。

薬師如来は、ガンジス河の砂数の10倍に等しい

仏国土を越えた彼方東方の淨瑠璃世界の主尊で、

まだ菩薩であったとき、十二の大願を立てて衆生

救済をされたと言われています。多くの難病は、

薬師如来の名を聞き唱えることで除去され、お薬師様への信仰により九種の不慮の死を避けることができますと謳われております。

※ヤマト政権による法隆寺創建の本尊は薬師如来でありました。

また、天武天皇は皇后鸕野媛良皇女（うのさら

らひめみこ）のちの持統天皇の病氣平癒を祈り、

六八〇年（680年）、薬師寺の建立を発願されて

おります。

日本伝来当初から茂吉が仏像を彫むまでには、

約千年の時が流れております。その間に薬師信仰は治病延命の功德だけではなく、死者の霊を鎮めることによつて人々に幸いをもたらす機能を有

しました。また、お薬師様が仏にも神にもなり

えて、精霊信仰や人格化した山の神、水の神、海神、

風神などの日本古来からの民間信仰と同化するこ

ともあったようでございます。

現世利益的な薬師信仰は、人々にはわかりやすく、

ありがたみが大きかったのでございましょう。

薬師如来の真言「オンコロコロセンダリマトウゴン

ワカ」オンコロコロセンダリマトウゴンと唱えて

茂吉から留吉へ、そしてその子へ孫へ信仰は繋が

っていったのであります。（続く）

この講談は本名菊地洋子さんが、正俊和尚の依頼を

うけ、川崎の歴史や宗禪寺の伝承を元に創作して下さ

ったものです。

菊池さんは、愛知県瀬戸市の御出身で東京都の小

学校の教員を三十五年間、おつとめになり、現在は退職

されて、青梅にお住まいです。後編はお盆号に掲載

します。十月三日の薬師大祭に演じていただきます。お

楽しみにお待ち下さい。

公開講座・鎌倉禅研究会

正俊和尚主管の鎌倉建長寺の聴講会です。どなたでも参加できます。入山料と資料代各五〇〇円、予約不要。十三時～十六時半

◆第百六十三回 三月二十六日(木)

法政大学講師 彭 丹先生の「建長寺第二世 兀庵普寧の語録を読む」と元金沢文庫長 高橋秀栄先生の「栄西の『興禪護国論』の禪」は新型コロナウイルスの為、中止といたします。

◆第百六十四回 四月十六日(木)

「坐禅儀」をめぐる
金沢文庫学芸員 道津 綾乃 先生
『中世鎌倉のまちづくり』を出版して
東京大学史料編纂所
教授 高橋 慎一朗 先生

◆第百六十五回 五月十四日(木)

大徳寺伝来 五百羅漢図の世界
金沢文庫学芸員 梅沢 恵 先生
蒙古襲来時の鎌倉仏教
慶應義塾大学斯道文庫准教授
高橋 悠介 先生

◆第百六十六回 六月十一日(木)

建長寺第二世 兀庵普寧の語録を読む
法政大学講師 彭 丹 先生
将来の鎌倉観光―文化財公開の視点から―
東京国立博物館 浅見 龍介 先生

◆第百六十七回 七月九日(木)

佐賀県に残る臨濟禅・日蓮・八幡時頼伝説
建長寺調査員 鈴木 佐 先生
鎌倉期肥後国に於ける禅信仰
熊本中世史研究会幹事 青木 勝士 先生

土曜講座のお知らせ

檀家さんに限らず、どなたでも出席できます。お寺で学びをしませんか。予約不要、お茶代三〇〇円。

◆第四十四回 四月二十五日(土) 十三時～十六時

中里介石忌に寄せて
法要 全員でお経を唱えます。
仏教講座 住職 高井和正
「日本仏教史その7―神仏習合―」
講談「大菩薩峠」を語る 菊地玉雲さん

「中里介石を学ぶ」

◆第四十五回 五月十六日(土) 十三時～十六時

宗禅寺文庫長 島田秀男 先生
住職 高井和正
「日本仏教史その8―末法と浄土―」
映画「みんなの憲法」を見る
憲法を勉強する会 羽村幸子さん
「五日市憲法」を語る

◆第四十六回 六月二十日(土) 十三時～十六時

高麗博物館館長 新井勝敏先生
住職 高井和正
「日本仏教史その9―法然―」
「おかいこさん(養蚕)と永昌院」
福生市 永昌院住職 桑林茂雄師
世界を広げる新聞の力

NIIE 企画デザイナー

※土曜日、お時間のある方々は是非お出かけ下さい。
鹿野川喜代美さん

宗禅寺毎月の活動

寺は学び舎

- 朝粥坐禅会……毎月第一日曜日 朝6時～8時半 月の始まりに坐禅。坐禅後、禅の作法でおかゆをいただきます 4/5 5/3 6/7 7/5
- 土曜坐禅会……毎週土曜日 子供:18時～19時 大人:19時半～21時 繰り返し繰り返し深い呼吸を。イス坐禅もあります
- 彼岸早朝坐禅会……彼岸中毎朝6時～7時(3月17日～23日) 朝の新鮮な空気を味わいましょう
- 土曜講座……毎月一回の勉強会。13時～16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。4/25 5/16 6/20 7/18
- 写経会……毎月1日、11日、21日、13時～15時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。
- 御詠歌……毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導:高井淑子
- 手打うどん教室……現在2クラス開講中。月一回。講師:「一作」島田辰夫先生
- 木彫教室……毎月第1・第3土曜日(変更の場合がありますので、お寺までお問い合わせ下さい。) 13時～16時まで 講師:新井達矢先生 場所:宗禅寺禅センター
仏像や能面を自分で彫ってみませんか。月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 俳句教室……毎月1回、適宜。問い合わせ先:中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会……毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合わせ:坂井陵童 ☎554-3273
- 健康体操の集い……毎週木・金曜日14時～16時 直接、禅センターにお越し下さい。予約不要
- 女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ―活動中です―
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。